

## 公益財団法人富徳会 第33回理事会議事録

- 1 日 時 2022年3月7日(月)午後4時00分～午後5時10分
- 2 方 法 web会議
- 3 会 場 東京都墨田区横網1-2-26 ライオンパール共同ビル 富徳会事務所他
- 4 理事現在数及び定足数 現在数7名 定足数 4名  
出席理事数 5名  
(出席理事) 小林 健二郎(代表理事・理事長)、柳橋 憲夫(常務理事) 中原 泉、  
井出 吉信、西永 英司  
(出席監事) 上林 博、大橋 常男  
(事務局) 武者 良憲、堤 憲子

### 5 議 案

決議事項 第1号議案 2022年度事業計画および事業予算承認の件  
報告事項 後記の通り

### 6 議事の経過及びその結果

#### (1) 定足数の確認等

柳橋常務理事は、本日の理事会は、web会議システムを利用した旨を述べ、出席者が一堂に会すると同時に、適時・的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。続いて、柳橋常務理事が出席者の確認を行い、理事現在数7名のうち5名の出席があり定款第41条の規定に定める定足数を満たしており、本理事会が成立する旨を報告した。

#### (2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款に基づき小林健二郎代表理事が議長となり、本会議の開会を宣した。議事録署名人は定款第44条第2項の規定に基づき、議事録署名人は小林代表理事、上林監事及び大橋監事とし、議案の審議に移った。

#### (決議事項)

第1号議案 2022年度事業計画および事業予算承認の件

小林理事長から2022年度の全般方針および事業概要の説明があり、その後、議長の指名により柳橋常務理事から、資料(2022年度事業計画、事業予算)に基づいて当該年度の事業計画と事業予算について詳細な説明がなされた。事業予算においては、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないことに加えて、原油をはじめとする資源高、ウクライナ情勢等の不確定要素が多く、世界経済の行方が不透明であることから、債権・投資信託による収益は減少すると考えられるが、保有株式の配当が維持されることから前年度並みの収益は確保できる見通しであること、当期の経常収益を前期より105千円少ない16,672千円とすること、また、経常支出は会議費等の削減により、昨年度より370千円減の14,328千円とすることが説明された。併せて、助成事業を安定的に継続するため、分散投資による価格変動リスクの低減、保有資産のポートフォリオによる新たな資産運用を検討する旨の説明がなされた。その後、質疑が行われ、議長はその可否を諮ったところ、異議なく議案を原案通り出席者全員一致で承認可決した。

#### (報告事項)

小林理事長及び柳橋常務理事は、配布した資料に基づき、つぎのとおり詳細に報告した。

#### 1. 財団設立50周年事業の実施内容の変更について

財団設立50周年事業を一年延期して、2022年5月に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で日本口腔衛生学会及び日本小児歯科学会春期大会の実施方法が変更となり、予定していた50周年事業セミナーの開催が困難となったことから、その実施内容を変更

し、セミナーで講演される予定の内容を収載した書籍「人生100年時代における歯科学研究の役割と可能性—若手歯科学研究者へのエール—（仮題）」の発行と財団ホームページでの公開に変更する旨が報告された。また、費用については2018年度から2021年度までの公益目的事業の経常増総額約4百万円（見通し）を充当すること、書籍発行に際しては、財団の役員、委員の先生方に寄稿をお願いし、発行は8月を目標とする旨の報告がされ、出席者全員が了承した。

## 2. 若手研究者育成強化のためのフォローアップ事業の実施について

配布した資料に基づき、当財団は、歯科学分野の若手研究者に対して1,444件の助成を行なってきたが、助成を受けた若手研究者が将来の歯科学研究を担う研究者として成長するためには、財団としてのフォローアップが必要であると考え、以下のフォローアップ事業を検討中で、今後、関係者の意見を求めたうえで、次回理事会（第34回）で当財団の事業として提案したい旨が報告された。

①研究助成を受けた若手研究者を対象とした継続助成の実施

②研究報告会、交流会を通してのネットワーク構築

なお、上記報告について、理事から選考委員会で選考に苦勞することが予想されるが、フォローアップ事業を実施しつつ、より良い事業にブラッシュアップしていくことが良いのではないかと意見が出され、出席者全員が了承した。

## 3. その他報告

新型コロナウイルス感染症の影響で研究の遅れが生じ、研究報告書の提出の延期要請があること、また、海外歯科保健医療活動の実施が困難で、2020年度と2021年度連続で採択された東京医科歯科大学と新潟大学での実施が保留となっていることが報告された。

来年度も海外歯科保健医療活動の募集は行うが、前記2大学から応募があった場合、大学に実施計画を確認したうえで、採択の可否は選考委員会に委ねたい旨が報告され、出席者全員が了承した。

以上、web会議システムを用いた理事会は、終始異状なく、議案の審議及び報告事項の説明がなされ、全員了承した。

以上をもって、全ての審議並びに報告を終了し、午後5時10分議長は閉会を宣した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席の代表理事及び監事は次に記名押印した。

2022年3月11日

代表理事・理事長

小林 健二郎



監事

上林 博



監事

大橋 常男

